

＜アルバイトにおける生活環境の違い＞
佐藤啓成 (22011146ks@tama.ac.jp)

1. はじめに

研究の背景として、アルバイトという学生の9割が経験するツールであり、アルバイトによってお金をすごく稼ぐ人もいれば、少ししかシフトに入らない人もいます。収入は人それぞれ異なるが、それは何故なのだろうか。

研究の目的として研究の背景の末に、大学生はどのくらいアルバイトをしているのか、また自らが働いたお金をどのような使い方をするのか、自分の今の収入で満足しているのか、親からの支援で生活しているのか、本当に必要でその収入を稼いでいるのか明らかにしていきたい。

2. 先行研究の分析

- ・アルバイトで得た習得スキルは、学生・企業側の両方から見ても社会人になって役立つという調査がある。
- ・1週間の深夜平均勤務時間は16.2時間。
- ・1か月の平均勤務日数は深夜で7.9日。
- ・平均睡眠時間は、アルバイト就労有無関わらず約6時間程。

4. 今後の課題とスケジュール

課題として、もっと先行研究の分析を進め、アンケート内容を完成させ、4月下旬から5月上旬にアンケートを取り、分析を行い結果をまとめる。そこから傾向などを調べ仮説と結論をまとめる。10月あたりまでに卒業研究を終えたい。

参考文献

[66_14.pdf \(jst.go.jp\)](#)

[jsi.16 \(jst.go.jp\)](#)

3. 研究方法

アンケート(大学生)

資料調査